

平成25年3月14日

北九州市 アジア低炭素化センター

## 北九州市内リサイクル企業による インドからの希少金属(レアメタル)輸入開始について

日本磁力選鉱株式会社（代表取締役社長：原田 光久、本社：北九州市、以下「日本磁力選鉱」）は、アジア低炭素化センターの協力のもと、平成25年4月より世界で初めてインドからバーゼル条約に従って廃プリント基板類の輸入を開始します。

### 1. 背景と意義

アジア低炭素化センター（北九州市）では、経済産業省の支援を受けて平成21年度から、インド・グジャラート州（西部）におけるエコタウン整備や既存産業からの廃棄物の循環利用に関する調査を行ってきました。次に平成23年度から日本磁力選鉱が経済産業省事業の委託を受けて、「インドにおける電気電子機器廃棄物のリサイクル事業に関する実施可能性調査」を実施しました。

これらの調査を終えた結果、日本磁力選鉱はインドのパートナー企業の発掘に成功し、自らが描いていたインドにおけるビジネスモデルである現地パートナー企業への技術移転や共同事業化を実現することで、このたび世界で初めてインドからバーゼル条約に従って廃プリント基板類の輸入が開始されたものです。

今回の輸入開始は、本市がグリーンアジア国際戦略総合特区の中で中核的な柱として掲げている「レアメタル等の回収拠点事業」や北九州エコタウンを軸とした「アジアにおける国際資源循環拠点構想」の実現に向けた大きな1歩と位置づけることができます。

尚、輸入した廃プリント基板類については日本磁力選鉱ひびき工場にて処理される予定です。

#### ◆バーゼル条約とは

正式には「有害廃棄物の国境を越える移動及びその処分の規制に関するバーゼル条約」といい、一定の廃棄物の国境を越える移動等の規制について国際的な枠組み及び手続等を規定した条約。相次ぐ先進国から途上国への廃棄物の輸出が問題になったことにより1992年に発効された。世界178国、1機関が加盟。日本も1993年に加盟。

### 2. 今後の展開

日本磁力選鉱は昨年11月にNEDO（新エネルギー・産業技術総合開発機構）より、「インドムンバイ市における先進的電気電子機器廃棄物リサイクルシステムに係る研究開発・実証」事業を受託しており、インドにおけるビジネスモデルの更なる確立に向けて、技術移転を含めた実証事業を行う予定です。

平成 25 年 3 月 18 日

## 日本磁力選鉱株式会社の具体的な取組み

### <目的>

インドで環境上、適正に処理できない貴金属及びレアメタルを含む廃プリント基板類を、バーゼル条約に従って日本に輸入し、北九州市が運営するエコタウンエリアに位置する弊社ひびき工場にて適正に処理を行うと同時に、貴重な資源を日本国内に確保する。

### 1. 事業内容

主として現地で廃棄される PC(パソコン)及び IT 関連機器類を、解体した際に発生する廃プリント基板類を輸入し、貴金属及びレアメタルを濃縮回収する。

尚、濃縮回収品については、最終的には三菱マテリアル(株)直島製錬所に搬入、高純度な貴金属、レアメタルとして抽出される。

### 2. 処理施設

北九州市が運営するエコタウンエリア

日本磁力選鉱(株)ひびき工場(北九州市若松区響町一丁目 79 番 1)

### 3. 輸入数量

- ・初年度 平成 25 年 4 月～平成 26 年 3 月 年間約 200トン 予定
- ・第 1 回目輸入 平成 25 年 4 月中旬頃

### 4. 輸入の流れ

